

思いつくままに (2 0 1 0)

死生観

臓器移植法についてよく新聞に載っている。人間が持って生れた「もの」を他人の「もの」と取り替えて生きる。それが可能な時代になってしまったが、それでいいの？もっと医学が進んで「脳」の取替が可能となったらどうなるんだ？金持ちは他人の身体に「自分の脳」を乗せて、いき続ける欲望を持つかも知れない。生きたいという思いと、生きててやという思いは尊いかも知れないが、人間の「気持ち」をどこで線引きをするかが問われている。個人個人の「死生観」の確立が必要とされているのではないか。

私は、持って生まれた「もの」のままで火葬場へ行きたい。

政治

菅だ小沢だと新聞もTVもうるさい。選挙民のレベル以上の政治は期待できない。国民のレベルを混迷する政治が証明している。国民に迎合するだけの政治でなく、ニンジンをつら下げて尾を振る国民でなく、孫・子に安心して暮らせることを目指す政治となることを望む。その為には国民力アップの必要性を感じる。ただ、現在の学力偏重の教育ではアップは無理と思うが。

やらない・行かない主義

私は、「主義」をいくつか持っている。神前結婚式やらない、七五三やらない、地鎮祭やらない、ゴルフやらない、囲碁やらない、万博行かない、デズニール行かない・・・これを世間では変わり者、頑固者、偏屈というようだ。囲碁は高校時代親父とちょっとした争いで「一生やらない」と宣言したからだ。この歳になって「我ながら頑固過ぎた」と反省するが、持って生まれた性だから仕方ない。この主義につき合わされた家族は大変だったと思う。

葬式

私は「無宗教」だ。ただ、眠れないときは「南無阿弥陀仏」と唱えている。これは、以前羊を数えたら――段々と数が増えて、一万匹にもなって眠れなくなったからだ。東本願寺系の檀家の家系だが、葬式もその後の弔い儀式も要らない。無宗教の家族葬を希望している。ただ、死んだ後は家族にまかせるしかない。「死人に口なし」だ。「後は任せたご自由に」。ただ、墓も法要も初盆も要らない。